

浄化センターの取り組み

内 藤 瑞 希

小郡市立のぞみが丘小学校

わたしが浄化センターの方々の取り組みについてわかったことは、水がないと、生き物が生きられないということです。もし、生き物に水がなかったら、死んでしまったりもします。それに、人間も、体の約六十パーセントが水でできているということを知りました。水がないと、かんきょうも悪くなってしまうので、浄化センターの方々は、とてもわたしたちの生活を守ってくれているということがわかりました。だからわたしは、これからも水を大切に、むだづかいをしないようにしようと思いました。そして、「じゅんかん」という言葉も知りました。「じゅんかん」は、海からじょうはつして、雲になり、そして雨がふり、ダムから浄水場へと流れていくことです。わたしは海からじょうはつして雲になることを知りませんでした。なので、じゅんかんのしくみがすごいなと思いました。

そしてもう一つは、「活性くん」という生き物のことです。活性くんは、水のごれやばいきんなどを食べてくれます。そして、よごれを食べて大きくなり、しずんできれいになった水がうき上がってきます。もし、活性くんがいなくなってしまうたら、安全ではないきたない水が送られてくると、いうことも知りました。活性くんは、とっても大事な生き物なんだとわかりました。

次は、トイレの水のことです。ペットボトルを使った実験がありま

した。まず、ペットボトルを二つ用意します。一つのペットボトルにトイレットペーパー、もう一つにはティッシュペーパーを入れます。そして、二十回ぐらいふったものを見てみると、トイレットペーパーは、とけているけれど、ティッシュペーパーは、とけていませんでした。なので、トイレには、トイレットペーパーしか流さないようにするということがわかりました。わたしは、それを知らなかったなので、家族にも教えていっしょに気をつけようと思います。

わたしは、水を当たり前のように使っていたけれど、このように毎日使えるようにしてくれているのは、浄化センターの方々のおかげだなと思います。水を出しっぱなしにしないこと、使い終わったら必ずとめるように気をつけようと思いました。水を使うときは、「毎日、当たり前のように使わせてくれて、本当にありがとうございます。」と、かんしゃの気持ちをこめて、使いたいと思います。